

里山の自然

4年生の「季節の生き物」に関する教材をさがしに、田園地帯に出かけました。そこは、自然がいっぱい。オタマジャクシやカエルがたくさんいました。



いろんな種類のオタマジャクシがたくさん泳いでいました。

水田に水が入ると、カエルは卵を産みます。卵がかえるとオタマジャクシがたくさん生まれます。一方、水の中にはミジンコをはじめとした微生物がたくさん現れます。これらがオタマジャクシたちの餌になります。



トノサマガエルです。

オタマジャクシが育つとカエルになります。ここにはたくさんのカエルが見られました。この間捕まえてきたトノサマガエルたちも、ここで捕まえました。その時のカエルは今日逃がしてあげました。カエルたちにとってここは楽園ですが、油断は禁物!



上空には時々トビが現れ、旋回していました。

自然が豊かだと言う事はそれだけ捕食者も多いと言うことです。上空には時々トビが上昇気流に乗って旋回していました。水田には蛇もいます。アオサギという大きなサギもいます。オタマジャクシたちがみんな力エルになれたとしても、その多くがこれらの捕食者に食べられてしまいます。

野生のメダカが見られる池にきました。今年は、まだ野生のメダカを見ていませんが、代わりにトンボの仲間がたくさんいました。



クロイトンボと思われるトンボが産卵しています。

イトトンボは、細かなところを比較しなければ種類は分かりません。ウェブページで公開されている写真を元に、見た感じで分類しました。この池や水田では、これ以外に、ギンヤンマの仲間やシオカラトンボ、赤とんぼの仲間など、多様なトンボが観察できました。さらに、この写真の右側に水生昆虫らしき生物が写っています。自然が濃い池です。



同じくクロイトトンボと思われるトンボですが、オスの口元に小さな虫が。

この写真からも、イトトンボといえども他の虫を捕まえて食べる肉食動物であることがわかります。



カワラヒワも見られました。

カワラヒワはこのような田園地帯で多く見られます。先日、4年生が校内で自然観察を行ったときに、カワラヒワがアブラナの種子を食べているところを観察できました。本田小学校の自然もなかなかのものです。

この個体は今年巣立った幼鳥と思われます。きっとこの近くで繁殖していたのでしょう。ほか、様々な蝶も飛んでいました。

写真に撮ることができませんでしたが、クロアゲハなどのアゲハの仲間、ミドリヒョウモンなどのヒョウモンチョウの仲間など見られました。



キタテハです。

オタマジャクシはたくさん採集できたので、水槽に入れてまた4年生の皆さんに観察してもらえたならなと思います。